

JANOG49 Meeting

国際的な標準化動向ウォッチのすすめ

－ 活動の壁を乗り越える！ －

「ISO標準化活動の壁と利点」



プログラマ/取締役
宮地直人 (miyachi@langedge.jp)

2022年1月27日

Who Am I. (miyachi の属性)

有限会社ラング・エッジ - プログラマ/取締役

<https://www.langedge.jp/>

電子署名 (PKI) / ID認証 / ドキュメント (PDF/OOXML)
標準化した仕様を製品に反映して販売

(兼業)

デジタル庁

トラストサービスマネージャー
デジタル社会共通機能グループ
法人IDチーム

JNSA 電子署名ワーキンググループ 標準化タスクフォース

<https://www.jnsa.org/> <http://eswg.jnsa.org/>

ISO TC154 (行政・商業・工業用書式及び記載項目) 委員参加

(Processes, data elements and documents in commerce, industry and administration)

<https://www.iso.org/committee/53186.html>

ISO/IEC JTC1 SC34 (文書の記述と処理の言語) リエゾン参加

(Document description and processing languages)

<https://www.iso.org/committee/45374.html>

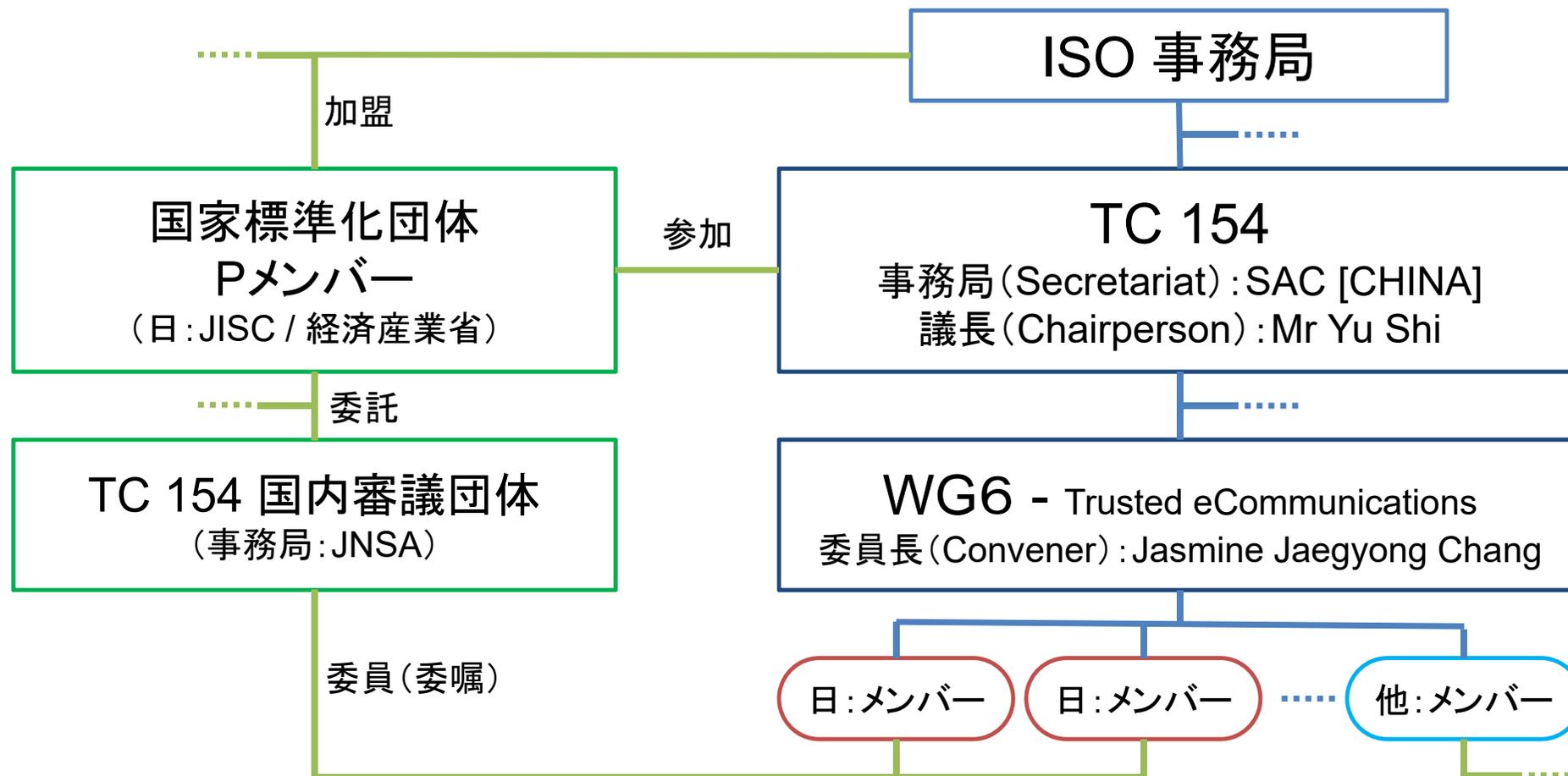
今日はこの
お話です!



ISO: 国際標準化機構 (International Organization for Standardization) とは？

- 各国の国家標準化団体で構成される非政府組織。
- 日本では経済産業省下のJISC(日本産業標準調査会)が担当。
 - 米国ではANSI(アメリカ規格協会)、ドイツではDIN(ドイツ規格協会)が担当。
- TC(専門委員会)毎にJISCから委託された団体が活動。
 - TC参加には 幹事国・Pメンバー・O(オブザーバー)メンバー の3種類がある。
 - 例: ISO TC 154 は JNSA に委託(Pメンバー)。
- IEC: 国際電気標準会議 (International Electrotechnical Commission) との合同委員会であるJTC1(合同専門委員会)を持つ。
 - JTC1下にはSC(小委員会)がある。
 - 例: ISO/IEC JTC 1 SC 34 は 情報処理学会 情報規格調査会 に委託(幹事国)。
- JIS: 日本産業規格 (Japanese Industrial Standards) は、産業標準化法に基づき制定される日本の国家規格。
 - 基本はISO規格を日本語化したものがJIS規格だが一部独自規格もある。

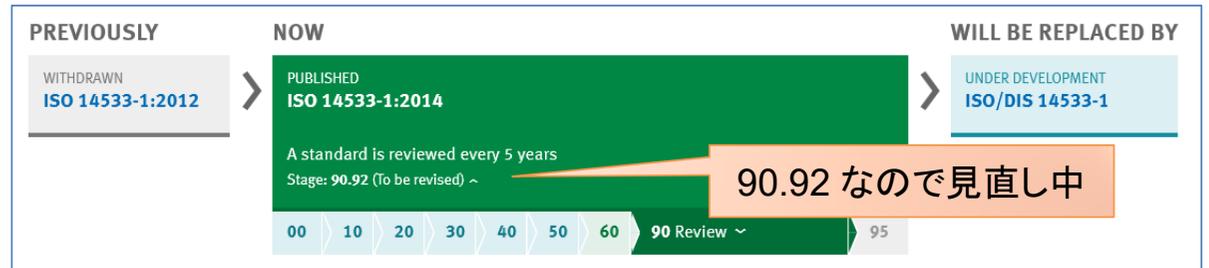
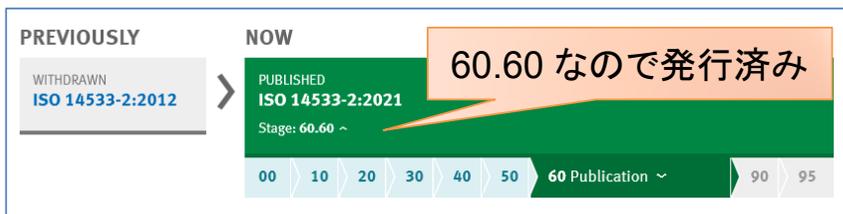
ISO TC 154 構造図 (2022年1月現在)



ISO標準化までのステージ

<https://www.iso.org/stage-codes.html>

ステージ	サブステージ						
	00 登録	20 開始	60 完了	90 決定			
				92 前繰返し	93 同繰返し	98 破棄	99 進行
00 予備	00.00 NP受領	00.20 NP審議	00.60 NP審議要約			00.98 破棄	00.99 NP承認
10 提案	10.10 PJ登録	10.20 PJ投票開始	10.60 PJ審議要約	10.92 返却		10.98 却下	10.99 PJ承認
20 作成	20.10 TC登録	20.20 WD検討開始	20.60 WDコメント			20.98 PJ削除	20.99 WD承認
30 委員会	30.10 CD登録	30.20 CD投票開始	30.60 CD結果要約	30.92 WG差戻		30.98 PJ削除	30.99 CD承認
40 照会	40.10 DIS登録	40.20 DIS投票開始	40.60 DIS結果要約	40.92 TC差戻	40.923 再投票	40.98 PJ削除	40.99 DIS承認
50 承認	50.10 FDIS登録	50.20 FDIS投票開始	50.60 FDIS結果要約	50.92 TC差戻		50.98 PJ削除	50.99 FDIS承認
60 発行	60.00 発行準備		60.60 国際規格発行				
90 見直し		90.20 定期的見直し	90.60 結果要約	90.92 改正	90.93 承認		90.99 廃止提案
95 廃止		95.20 廃止投票開始	95.60 投票要約	95.92 否決			95.99 廃止



ISO標準化までの条件

ステージ	クリア条件
NP/NWIP 投票 (New work item Proposal)	投票したTC/SCのPメンバーの2/3以上が賛成(※)すること、かつ5ヶ国以上のPメンバーがエキスパート登録すること。 ➤ NPから3ヶ月以内に投票を依頼。
CD 投票 (Committee Draft)	投票したTC/SCのPメンバーの2/3以上の賛成(※)すること。 ➤ 登録から12ヶ月以内にCDの投票。 • 委員会の判断でCD段階はスキップされることもある。
DIS 投票 (Draft International Standard)	投票したTC/SCのPメンバーの2/3以上が賛成(※)、かつ反対が投票総数の1/4以下(DISが否決された場合、修正し再投票)。 ➤ 投票期間3ヶ月、登録から24ヶ月以内にDISの投票。 • DISになるとドキュメント公開され他標準からの参照も可能となる。
FDIS 投票 (Final Draft International Standard)	投票したTC/SCのPメンバーの2/3以上が賛成(※)、かつ反対が投票総数の1/4以下(FDISが否決された場合、修正かTS発行か取消)。 ➤ 投票期間2ヶ月、登録から33ヶ月以内にDISの投票。 • DISでコメントが無かった場合にはFDIS投票はスキップされる。
国際標準(ISO)発行 (International Standard)	➤ 発行期限はNP提案承認から36ヶ月以内。 ➤ ISOプロジェクトは通常3年(36ヶ月)だが2年(24ヶ月)の場合もある。

※ ただし棄権票は省く。FDISを除いてコメント付き賛成もあるが、その場合は次のステージ前にコメント対応が必要となる。

どうしたらISOの標準化活動に参加できるのか？

JISCから委託されているISOの国内専門委員会に参加する。

例1: ISO TC 154 の場合

- ✓ JNSAに加盟して電子署名WGの標準化TFに参加。☞宮地
- ✓ TC 154 の国内専門委員会に参加を希望して認められる。
- ✓ リエゾンとして他の標準化団体から参加。

例2: ISO/IEC JTC 1 SC 34 の場合

- ✓ 情報処理学会 情報企画調査会 の賛助員となって参加。
- ✓ リエゾンとして他の標準化団体から参加。☞宮地

※ 正直言って個人参加はハードルが高い(一般に団体加盟は有償)。

※ 基本的には無償ボランティアとしての活動(これはこれで問題)。

ISO標準化活動の「3つの壁」

壁1: 参加に条件があり気軽に参加できない、参加の壁。

- ✓ 委員会を運営する団体に入るのが簡単だが会費が必要。
- ✓ 誰か委員を知っていれば入りやすいが簡単には見つからない。

壁2: 作業量が多いが基本は無償ボランティア、収入の壁。

- ✓ プロジェクトでは会議・検討・コメント対応に時間が取られる。
- ✓ エキスパートが対応しているので通常だと単価も高い人材。
- ✓ 所属企業の為では無く日本としての対応なので人材を出しにくい。

壁3: 属人化しやすく世代交代が難しい、世代の壁。

- ✓ 投票もあるので他国との人間関係も重要で属人化する。
- ✓ 長年対応している人材ばかりで固定化しやすい。
- ✓ 引き継ぐ人材を見つける育てるのが難しい。
- ✓ 既に多くの分野で高齢化が進行しつつある。



ISO標準化活動の「3つの利点」

利点1: 自分の専門性を高めることができる、キャリアの利点。

- ✓ アカデミック的に第三者を論理的に説得できる知識が身につく。。
- ✓ 特にスコープの決め方やAPIの切り方は企業では身につけにくい。
- ✓ その分野の専門家として世の中に認知される。
- ✓ 国内はもちろん世界的にも同じ分野の人脈が築ける。

利点2: 国際貢献や日本の為になる、やりがいの利点。

- ✓ この標準化をすると世間の人たちが幸せになる(はず)。
- ✓ 国際的に日本の存在感を出せる。

利点3: いち早く標準を製品に取り入れる、企業の利点。

- ✓ 仕様策定を先導して発行前に製品組み込みも可能。
- ✓ 自社製品の方針に合った標準化も可能。
- ✓ 製品分野の専門家を育てることが可能。

